

第4次豊田市教育行政計画最終評価報告書【概要版】



1 計画の全体評価

(1) 重点施策における状態指標の達成状況

4つの重点施策それぞれに設定している状態指標全15項目のうち、13項目がめざす方向に進展し、第4次豊田市教育行政計画を着実に推進することができました。一方で、進展しなかった項目は重点施策4「家庭・学校・地域の共働の推進」に関する指標である「地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合（小学生）（中学生）」の2項目でした。

状態指標（実績値下線：めざす方向に進展した項目）		めざす方向	計画当初	実績値
重点施策1	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 ①小学生 ②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査】	↑	①84.6% ②69.8% (2019)	①89.2% ②87.7% (2025)
	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると思う児童生徒の割合※ ①小学生 ②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査】 ※2023年度より全国学力・学習状況調査の項目から設定が無くなったため、2024年度より豊田市教科等に対する意識調査の項目に追加	↑	①79.5% ②67.5% (2019)	①80.8% ②73.7% (2025)
重点施策2	学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 ①小学生 ②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査】	↑	①84.9% ②79.7% (2019)	①88.2% ②86.0% (2025)
	一人ひとりにわかりやすい授業をしていると思う保護者の割合 【出典：保護者アンケート】	↑	66.7% (2020)	68.3% (2025)
	先生が自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合 ①小学生 ②中学生 【出典：全国学力・学習状況調査】	↑	①85.9% ②79.1% (2019)	①93.8% ②92.2% (2025)
重点施策3	日ごろの生活の中で生きがいを感じている市民の割合 【出典：市民意識調査】	↑	72.2% (2021)	74.6% (2025)
	自分の住む地域が好きだという児童生徒の割合 ①小学生 ②中学生 【出典：教科等に対する意識調査】	↑	①88.6% ②84.5% (2020)	①92.1% ②86.7% (2025)
重点施策4	1年以内に、小・中学校の活動又は児童生徒とともに行う地域の活動に参加した市民の割合 【出典：市民意識調査】	↑	15.0% (2021)	18.1% (2025)
	地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合 ①小学生 ②中学生 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	↑	①80.0% ②70.3% (2020)	①76.0% ②65.2% (2024)



(2) 自己評価と進捗状況

重点事業と基本事業を合わせた全41事業のうち、評価区分AとBに該当する事業は全体の96%となり、概ね計画どおりに事業を進めることができました（完了した事業を含む）。

進捗状況も、「順調」・「概ね予定通り」・「完了」の項目を合わせて76%となり、計画期間4年間の本計画事業は、概ね予定通り推進することができました。一方で、児童生徒の多様化、人手不足等の要因により、「遅れ」、「廃止」となった事業もあり、事業手法の見直し等を検討する必要があります。

＜第4次豊田市教育行政計画の進捗状況＞

	自己評価区分				進捗状況				
	A	B	C	D	順調	概ね予定通り	遅れ	完了	廃止
重点事業 全12事業	5	6	1	0	4	4	4	0	0
基本事業 全29事業	17	11	0	1	9	11	5	3	1
全体	22 54%	17 42%	1 2%	1 2%	13 32%	15 37%	9 22%	3 7%	1 2%

【評価区分】
A：今後も現状（計画・予定）通り事業を進めることが妥当。もしくは、予定通り完了
B：事業内容や事業手法に改善を行う余地があり。より一層の効率化やコスト削減、成果向上に努める必要があり
C：事業内容や事業手法の大幅な見直しが必要。取組内容の一部廃止や実施主体の変更など、事業内容の大幅な見直しに努める必要があり
D：事業の廃止や休止、事業規模の大幅縮減など、事業のあり方について抜本的に検討する必要があります

(3) 第4次豊田市教育行政計画の総括

学習用タブレット端末や学習用アプリの導入などICT機器の活用を推進するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした「学力向上授業モデル」による授業改善が進み、包括的な不登校支援である「居場所みつけプラン」やインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組も進められたことで、重点施策の状態指標は概ねめざす方向へ進展しました。

一方で、地域行事への参加率が低下しているため、今後はこどもが地域の大人とつながり、多様な考えに出会う機会を増やし、「地域とともにある学校」の実現に向けた取組をさらに充実させる必要があります。



(4) 第5次豊田市教育行政計画の推進に向けて

国、社会の現状や各種調査結果、第4次豊田市教育行政計画の総括で明らかになった課題を踏まえ、2026年3月に「第5次豊田市教育行政計画」を策定しました。

第5次豊田市教育行政計画では「第9次豊田市総合計画」で注力する「こども起点」と「つながり合う」という視点を重視し、学習者の主体的な学びを支える教育行政の方向性を明らかにするとともに、必要な取組を着実に推進していきます。

【主な取組（新規）】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、探究的な学びの推進に取り組み、こどもたちの生き抜く力を育みます。
- 小中学校の探究的な学びの連続性と学びの環境を確保するため、学校規模を考慮しながら、小中一貫教育等の導入を検討します。
- こどもたちが多様な他者と関わる機会と、市民が学び続ける機会の充実のため、学校施設を多様な主体が出会い、交わる「学びの拠点」へ転換します。
- 豊田市いじめの防止等に関する条例の基本理念に基づき、こどもたちが安心して過ごせるよう、地域社会全体でいじめの防止等に取り組みます。